

平成 30 年度

社会資本整備総合交付金事業 橋梁定期点検業務委託

特記仕様書

第 1 章 総則

第 1 条 適用範囲

本特記仕様書（以下「特仕」という。）は、箕輪町が発注する「平成 30 年度 社会資本整備総合交付金事業 橋梁定期点検業務委託」（以下「本業務」という。）に適用する。

なお、特仕とは長野県建設部設計業務共通仕様書（以下、共通仕様書という。）の技術的規定を準用し、特に定めのない事項について本特仕を順守するものとする。

第 2 条 業務管理

受託者から本業務の発注を受けた者（以下「受注者」という。）は委託契約書、設計図書、本特記仕様書、業務打合せ書及び関係法規を順守し、受託者から通知され監督員の指示を受け正確に施行しなければならない。

第 3 条 履行期間

本業務の履行期間は、契約の日から平成 31 年 3 月 15 日までとする。

第 4 条 秘密の保持

受注者は、常務内容及びその成果を監督員および委託者の承認を得ずに第三者に知らせてはならない。

第 5 条 資料の貸与

受注者は契約遂行に必要な関係書類の貸与を監督員および委託者に申し出ることができる。

第 6 条 作業の確認

受注者は、作業の進捗状況を随時監督員に報告しなければならない。

第 7 条 中間成果の提出

受注者は、業務の途中において監督員より中間成果を求められた時はその指示により提出するものとする。

第 8 条 定期点検の体制

受任者は道路橋の定期点検を適正に行うために必要な知識及び技能を有する者がこれを

行うこととし、以下に示す管理技術者及び担当技術者を定めなければならない。

(管理技術者)

管理技術者は、健全性の診断（部材単位の健全性の診断）において適切な評価を行うために、以下の①から③に定めるいずれかの資格を有する者とする。なお、管理技術者を変更することはできない。ただし、やむをえない理由による場合は発注者の承諾を得て、同等以上の者に変更することができる。

- ① 技術士（建設部門（鋼構造及びコンクリート）
- ② 認定技術管理者（鋼構造及びコンクリート部門）
- ③ RCCM（鋼構造及びコンクリート）

(担当技術者)

1 受注者は、道路橋の定期点検及び診断を適正に行うために、「必要な知識及び技能を有する者」を「担当技術者」として定め、その氏名、その他必要な事項を契約時に発注者に通知しなければならない。変更した時も同様とする。

なお、担当技術者は、管理技術者を兼ねることはできない。

2 担当技術者は「橋梁検査員」及び「橋梁点検員」とし、橋梁定期点検要領4．3点検の体制【解説】に掲記される定義とする。なお、担当技術者は複数通知できるものとし、以下の①から③に定めるいずれかの資格を有する者とする。

- ① 工学博士
 - ② 技術士（鋼構造及びコンクリート）
 - ③ 公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録規定（国土交通省告示第1107号）による「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録簿」に記載される資格のうち、施設分野が「橋梁」の「点検」若しくは「診断」に関する資格を有する者であること。
- 3 担当技術者は、3か月以上の恒常的な雇用関係にあること。

第9条 疑義

受注者は、本業務の実施に当たり疑義が生じた場合には、発注者と協議を行うものとする。

第2章 実務内容

第1条 実務目的

「橋梁定期点検要領（平成26年6月 国土交通省道路局 国道・防災課）」及び「長野県道路橋定期点検要領（平成27年6月 長野県建設部道路管理課）」（以下、「点検要領」という）に基づき道路橋の定期点検を実施し、道路橋の各部材の状態を把握、診断し、必要な措置を特定するために必要な情報を得ることを目的とする。

第2条 業務概要

対象橋梁

大出橋、大出橋歩道橋、中道橋、堂地橋、大原橋、松島橋

第3条 業務内容

1 定期点検

(1) 計画準備

業務計画書作成、部材番号図の作成及び修正を行う。

(2) 現地調査

橋梁点検に先立って現地踏査を行い、橋梁の変状（劣化・損傷等）程度を把握するほか、橋梁の立地環境、交通状況、交通規制の要否、近接手段等について現場の概況の調査記録（写真撮影含む）を行う。

(3) 関係機関との協議資料作成

橋梁定期点検において必要な電線管理者、道路占用者及び交通管理者との協議用資料、説明用資料の作成及び必要な資料等の収集を行う。

(4) 定期点検

「点検要領」に基づき、橋梁点検車、高所作業車、点検用足場、あるいは梯子等を用いて、橋梁点検を近接目視にて行うとともに、点検対象部材の部材単位での健全性の診断と橋梁毎の健全性の診断を行う。また、必要に応じて橋梁台帳の記載事項を補完するために現地計測を行う。

なお、点検作業に携わる人員の名称及び作業内容は次の通りである。

ア 橋梁点検員：橋梁点検員は、点検作業班を統括し、安全管理について留意して、作業員の行動を掌握するとともに、点検補助員との連絡を密にして点検漏れのないように点検調査を実施・管理し、部材単位の変状の判定を行う。

イ 点検補助員：点検補助員は、橋梁点検員の指示により、点検作業の補助を行う他、点検車歩廊部（油圧屈伸式にあつては点検作業台）の移動操作、点検車運転員及び交通整理員との連絡・調整を行う。

(5) 点検調書作成

点検結果をもとに、「橋梁定期点検要領（平成 26 年 6 月 国土交通省道路局 国道・防災課）」P28～38（点検調書（その 1）～（その 11））に基づき点検調書を作成する。

また、「長野県道路橋定期点検要領（平成 27 年 6 月 長野県建設部道路管理課）」別紙 6（点検表記録様式（その 1）～（その 5））に基づき点検調書を作成する。この際の損傷度評価は、「長野県道路橋定期点検要領（平成 27 年 6 月 長野県建設部道路管理課）」別紙 6 点検表記録様式（その 4-1～3）及び付録—1 橋梁点検シートの判断基準による。

(6) 報告書作成

点検業務の成果として、作成した資料や点検調書等のとりまとめを行う。なお、点検調書等は「橋梁修繕管理システムに入力することによりデータ作成を行うものとする。

2 形状調査

必要に応じて主要構造寸法を測定し、調査報告に必要な現橋の一般図（側面図、平面図等）を作成する。作成した図面は、報告書に添付するものとする。

3 外観変状調査

必要に応じて各構造部材の外観変状を調査記録（写真撮影を含む）し、報告書に添付するものである。また、各種試験を行う場合はその結果についてとりまとめ、報告書に添付する。

調査資料の構成は、下記の内容をとりまとめること。

- （１）一般事項
- （２）構造概要
- （３）変状部分の種類及び程度、説明事項、特記事項
- （４）変状図（舗装面のひび割れ、床版及び桁のクラックと遊離石灰、鉄筋腐食、塗装剥離、豆板等）及び写真、変状の説明
- （５）調査結果及び考察（各部位について、結果・原因とその対策をまとめる）
- （６）各種試験結果
- （７）クラック現況図（クラック注入をする場合は、数量の把握まで行う）
- （８）まとめ（原因とその対策（案）、補修方針等）

※注

ア 本調査には、調査結果に基づく今後の補修設計の提案を含む。

イ 変状図の書き方は、「橋梁定期点検要領（平成 26 年 6 月 国土交通省道路局 国道・防災課）」を参照。

4 打合せ協議

中間打合せは１回とし、追加の打ち合わせが必要な場合は、発注者、受注者双方の協議により、変更対象とするか決定する。

第４条 調査の方法

１ 調査の際の確認方法は点検作業車若しくは橋面上からの調査を基本とし、桁下の調査については、点検作業車による近接目視・触診・打診等にて確認を行うこと。

２ 調査にあたって、事前に安全計画を策定し、交通誘導員等の安全対策が必要な場合は、監督員と協議の上、必要な対策を講じること。

３ 外観変状調査の実施の際、異常を確認した場合には目視のみではなく、触診及び打診等による確認を行うこと。

第５条 成果品

１ 点検業務の成果品として、作成した資料や点検表記録等のとりまとめを行う。

本業務において作成した資料や打ち合わせ記録簿、点検票記録等を取りまとめた全ての報告書を2部提出しなければならない。

なお、Microsoft Excel で作成した各点検調書については、電子媒体でも納品すること。また、「橋梁修繕管理システム」により作成した点検調書は、DBも納品すること。